

長岡市・関係団体共同記者発表要旨

日 時：令和元年10月8日（火）午前11時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【発表項目：スポーツの力をまちづくりに活かす！

長岡市、ヨネックス㈱、（公財）長岡市スポーツ協会が

「スポーツによるまちづくりの推進に関する協定」を締結】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

ヨネックス株式会社 代表取締役 林田 草樹

（公財）長岡市スポーツ協会 会長 市村 輝男

同席者：ヨネックス株式会社 新潟工場長 小林 和夫

（司会）

本日締結する協定について説明いたします。

「スポーツによるまちづくりの推進に関する協定」は、これまで市民がスポーツに親しむ機会の提供やスポーツ選手の育成強化など、スポーツ振興に取り組んできた長岡市、ヨネックス株式会社、公益財団法人長岡市スポーツ協会が、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催まで1年を切り、スポーツへの関心が高まっている今こそ連携し、それぞれの強みを生かすことで、これまで以上の成果を上げることができるのではないかと意見交換を重ね、このたび締結の運びとなったものです。

続きまして、出席者からごあいさつをいただきます。まずは、長岡市長、磯田達伸がごあいさつ申し上げます。

（長岡市長）

長岡市では、長岡市スポーツ推進条例を1年前に施行して、今日はその1周年の記念日です。その記念日に、長岡発祥の世界的なスポーツ用品メーカーであるヨネックス株式会社さんと、長岡市スポーツ協会と「スポーツによるまちづくりの推進に関する協定」を結ばせていただくということで、本当にうれしく思っているところです。

申し上げるまでもなく、ヨネックス株式会社さんは、木製ラケットの製造から始まって、今やテニスやバドミントンのラケットから自転車のフレームまで作っている世界的なメーカーで、長岡が誇る会社の一つです。

長岡まつりの花火の協賛をはじめとして、さまざまところで長岡市に貢献していただいております。県内で唯一の女子プロトーナメントであるヨネックスレディーストーナメントは長岡市も共催し

ています。

その中で、ぜひヨネックスさんとしっかり協定を結びながら長岡市の「スポーツによるまちづくり」をご支援いただければという思いでお話し合いを進めさせていただいて、めでたく今日という日を迎えました。重ね重ね感謝申し上げます。

ヨネックスさんのラケットは本当に技術の最先端を行く製品を生み出されていて、まさしく会社を挙げてイノベーションに取り組んで、成功された会社です。長岡版イノベーションを進めている中で、スポーツ分野における役割も、この三者の中で果たしていけたらなという思いがありますので、そういった意味ではヨネックスさん、そして長岡市スポーツ協会という、スポーツの分野、イノベーションの分野で、頼もしいパートナーができたと心から喜んでいるところです。

スポーツの力、そしてイノベーションの力によって、市民の生活、そして経済、明るい未来を築いていきたいと思っています。

(司会)

続きまして、ヨネックス株式会社代表取締役社長、林田草樹様からごあいさつをいただきます。

(林田)

このたび「スポーツによるまちづくりの推進に関する協定」を長岡市さん、そして長岡市スポーツ協会さんと三者で締結させていただきます。本当にうれしく思っています。

弊社は、1946年に創業しました。創業者であるファウンダー名誉会長、米山稔が、この長岡の塚野山で事業を起し、1957年からバドミントンラケットを製造しています。今でもこの長岡で素晴らしい選手たち、あるいは素晴らしいお客様のために製造、販売をさせていただいているところです。

当社はバドミントンラケット、テニスラケット、スノーボード、スポーツサイクルを含めて、さまざまなカーボンを中心に、最先端技術により製造させていただいておりますが、経営理念として「独創の技術と最高の製品で世界に貢献する」というのが社訓でございます。

それをこれからメイド・イン・ジャパンとして、この長岡の地から世界に発信し続けたいと考えております。

以前からスポーツを通じて、バドミントン、テニスのクリニック等々、当社の選手を派遣しながら、多くの子どもたちを元気づけるなど、この長岡市がもっともっと盛り上がるようにと活動させていただいています。改めて、今日、このような協定を結ばさせていただくということは、今まで以上に身の引き締まる思いです。

2020年、来年は東京オリンピック・パラリンピックでございます。今、国民レベルでスポーツ熱が非常に高まっているという中に、三者の連携によるそれぞれの資源をしっかりと生かしながら、今まで以上の成果を上げることができるのではないかと考えています。

スポーツは人々に夢と感動を与えると私は確信しています。協定締結を機に、長岡市にもそういう思いをみんなで作って上げていくことをお誓い申し上げまして、私のごあいさつにさせていただきます

す。

(司会)

続きまして、公益財団法人長岡市スポーツ協会会長、市村輝男様からごあいさつをいただきます。

(市村)

公益財団法人長岡市スポーツ協会には、約50団体が加入しています。長岡市とスポーツ協会は両輪の関係を持って、子どもたちの育成と競技力の向上を目指し、日々活動しています。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催まで1年弱になり、来年の7月24日には開会式が行われます。長岡市にゆかりのある選手をぜひオリンピックに送りたいということで、「長岡市民スポーツ応援団」を2年前に組織し、物心両面から選手の皆さんを支援しています。

ヨネックスさんは、長岡市が誇る、世界に冠たる企業です。我々スポーツ協会もヨネックスさんにはいろいろな面で選手の強化、子どもたちの育成という場面でこれまでもお世話になっています。

今日、結ばせていただく協定をもって、ますます市、スポーツ協会、それからヨネックスさんの三者が強固な連携をとって、特に若い人たち、子どもたちに夢と希望を与えるようなスポーツ政策が推進できたら素晴らしいと思っています。

長岡市議会が発案した長岡市スポーツ推進条例が制定されて、今日は1年です。スポーツ推進条例、長岡市民スポーツ応援団、それから本協定と、いわゆる三本の柱がここでしっかりと確立できたという思いです。

スポーツ協会としましても、これらの連携を踏まえた中で、スポーツの発展、推進、選手の強化等々に邁進していこうと心を新たにしています。

(司会)

これより磯田市長、林田社長、市村会長から協定書に署名をしていただきます。それでは、協定書にお手元のペンで署名をお願いいたします。

(協定書へ署名)

(司会)

続きまして、記念撮影を行います。

(写真撮影)

(司会)

それではこれから質疑応答を行います。ご質問のある方は挙手をお願いします。

(記者)

長岡市として、こういった協定は何例目でしょうか。また、ヨネックスさんにおかれてはいかがでしょうか。

(長岡市長)

長岡市として、地元ゆかりの企業と結ぶスポーツ分野に特化した協定は初めてです。包括連携協定

のような形で各分野で協力していきましょうというのはいくつかあります。

(林田)

ヨネックスでは、昨年の12月に秋田県美郷町さんと、町民の健康増進ということで包括連携協定を結びました。ここは、来年タイのバドミントンチームが合宿誘致されていること、タイのナショナルチームが当社と契約をしているというご縁から、結ばせていただきました。

そして、今年2月に埼玉県草加市と、スポーツ協会を加えた三者の包括協定を結びました。ここは、私どもの東京工場があり、私どもの実業団チームの拠点であることから締結しました。

今、申し上げました秋田県美郷町さん、そして埼玉県草加市さんに続き、長岡市さんは3例目となります。

(記者)

締結したほかの2市町は包括協定ということで、長岡市と若干名称が異なりますが、内容的にはどのような特徴がありますか。

(林田)

私どもにかかわるバドミントン、ソフトテニス、そしてウォーキングとか、そういった市民の健康促進という内容になっています。

(記者)

今日、長岡市と結んだ協定とほとんど差異はないのでしょうか。

(林田)

内容的にはほぼ一緒と認識しています。

(記者)

美郷町の場合はバドミントンという特色があって、今回の場合はスポーツ全般ということではないのでしょうか。

(林田)

そういう変化はないです。同じような内容で、私どもが取り扱っている製品などの中で、市民の皆さんの健康促進あるいは普及、発展にどういった協力ができるかということで進めさせていただいています。

(記者)

資料の「産学官連携」に、「市内大学との連携等オープンイノベーションによる製品開発の促進」とありますが、これまでどのようなものを産学官連携で開発なさったのか、事例があればお聞かせください。また、今後の産学官連携による製品開発の見通しをお聞かせください。

(林田)

詳細には申し上げられませんが、連携では製品になったものも開発段階のものもあります。人間の体の動きだとか、ラケットの素材、柔軟性、音など、さまざまな部分で協力をいただいて新しいもの

を開発していこうと、現在進めているところです。

(記者)

協定の中で、ヨネックスから選手やコーチを派遣する旨の項目がありますが、具体的に決まっている事例はあるのでしょうか。

(林田)

具体的に決まっているものはありませんが、以前からジュニアの育成など、講習やコーチ派遣を行っています。これからもジュニア選手の育成、あるいはスポーツへの取り組み、感動を求めていきたいというふうに考えております。

方向性として決まっているのは、2016年から長岡市に共催いただいているヨネックスレディスに市民の方々をいくつかの枠で招待したり、トッププロとの触れ合いなどを考えています。

(記者)

協定に書いてあるうち、今までやっていなかったものはどれでしょうか。

(林田)

バドミントンのS/Jリーグは、昔、長岡でもやったことはありますが、最近はそういった招致はできていないということです。我々のご協力できることがあればと考えています。

(長岡市長)

「産学官連携」ということがあります。長岡市が進めているイノベーションの中で、今、先端的なソフトウェアの開発などの新しい技術の開発環境を作りたいと取り組んでいますが、ぜひそこをヨネックスさんに使っていただきたい、連携していただきたいと思っています。そのことがオープンイノベーションになるかわかりませんが、ヨネックスさんとの連携の中で、新しい企業がそこで生まれたり、既にある企業がまた発展したりというチャンスにもなるし、研究機関、大学にとっても研究のフィールドをヨネックスさんから提供していただいて、また新しい技術がそこから生まれることもあろうかと思えます。

長岡市のイノベーションにヨネックスさんから参加していただくことによって、イノベーション全体が刺激されて加速化されることを期待しているところもあります。

(記者)

連携する事業の中で、このイベントを年に何回行うなどの数値的な目標をお聞かせください。

(スポーツ振興課長)

具体的なところは決まっていますが、協議をしながら決めていきます。

(記者)

動作分析データの提供等とありますが、これは市内の大学で研究しているのでしょうか。それとも、これからそういったスポーツ機関を作っていくということでしょうか。

(小林)

現在、動作解析等は、新潟医療福祉大学さんと取り組んでいます。ジュニアの動作分析を進める中で、ジュニア選手を紹介していただいたのが長岡市スポーツ協会さんで、そことやりとりしながら進めております。

もう一つ、長岡技術科学大学さんとは2年前に包括協定を結んで、多方面にわたって研究を行っています。今まで素材、流体力学、感性工学の研究など、多岐にわたってやっていたし、これからも技大さんとも協力しながら、イノベーションと製品をつくることを目標に一緒にやっていく予定です。

(記者)

動作解析は市内のジュニアということですが、長岡市ということに特別な意味があるということでしょうか。

(小林)

長岡にある工場で行っていますので、長岡で開始したということです。最終的には、各地で取り組みたいと思っています。

(記者)

今回の協定はスポーツ全般ということですが、野球やサッカーなどのスポーツに対するメリットはどのようなものがあるのでしょうか。

(市村)

ヨネックスさんはシューズやウエアなど、全てのスポーツに共通したようなアイテムも随分お持ちですので、それらのミキシングをやっていくのはこれからの一つの課題と思っています。

基本的には、いろいろなところでこれから話を進める中で、長岡のスポーツ、健康を増進し、スポーツによるまちづくりを推進する一つの基礎づくりがここから始まるということです。

(長岡市長)

長岡市は、スポーツによるまちづくりという政策を掲げる中で、特に種目を定める考えは持っていません。それぞれに愛好家、競技者がいます。市民がそれぞれ自分の好きなスポーツに熱中して、毎日楽しい生活を送ってもらいたいということですが、長岡発祥の世界的なスポーツ用品メーカーであるヨネックスさんは、長岡市の誇りだと認知してもらうことは、スポーツ全般の振興にもつながるといことです。そういう意味でも、関係を深めて一緒にやらせてもらえるのはうれしく思っています。

(司会)

以上を持ちまして、協定締結式を終了します。ありがとうございました。